

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2012.6 第20号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：廣瀬慶寛）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成24年度総会・第1回研修会のご案内

平成24年度総会・第1回研修会を下記の通り開催いたします。今回の教養研修では、文化庁、桑名市より講師をお招きし、具体的な事例を交えご講演頂いた後、国指定名勝の諸戸氏庭園などの見学を行います。

実技技能研修では、三重県桑名市内の諸戸徳成邸庭園にて、庭園についてのご解説を頂き、空間構成、管理方針について会員諸氏と討議しつつ、実際の庭園において技術研修会を行います。

庭園の様々な事柄について、率直な意見交換が期待できます。ふるってご参加ください。

●平成24年7月27日(金) 会場：桑名市市民会館（三重県桑名市中央町3-20）

12：45 受付開始（桑名市市民会館 2階小ホール）

13：00 総会開会

14：00 教養研修（講演会）

講演：本中 眞 氏（文化庁記念物課主任文化財調査官）「新指定名勝について」

水谷芳春氏（桑名市教育委員会主査）「諸戸氏ゆかりの文化財について」

15：25 実地技能研修 名勝諸戸氏庭園、名勝旧諸戸氏庭園（六華苑）

現地指導：尼崎博正氏（京都造形芸術大学教授、評議員）、加藤末男氏（植彌加藤造園(株)、正会員）、水谷芳春氏、吉村龍二氏（(株)環境事業計画研究所所長、賛助会員）

17：25 閉会

●平成24年7月28日(土) 会場：諸戸徳成邸（三重県桑名市東方1524）

9：00 ～ 17：00 実技技能研修

●平成24年7月29日(日) 会場：諸戸徳成邸（三重県桑名市東方1524）

9：00 ～ 15：00 実技技能研修

15：00 ～ 15：30 講評

15：30 閉会

☆総会会場☆

場 所 桑名市市民会館 2階小ホール

（三重県桑名市中央町3-20）

（右図参照）

交通機関 JR桑名駅より徒歩15分

（公共交通機関を御利用下さい）



平成23年度実地技能研修会開催される

平成24年3月17日(土)・18(日)、東京都内を会場として、実地技能研修を開催しました。その概要をご報告致します。

17日(土)は、小石川後樂園(国指定特別史跡特別名勝)にて実地技能研修が行われました。はじめに本協議会廣瀬慶寛代表にご挨拶いただき、引き続いて研修を行いました。

この日はあいにくの雨模様であったため、隣接する日中友好会館をお借りして講義を行いました。まず、龍居竹之介評議員から、小石川後樂園の歴史や修理事業の概要についてご解説を、続いて東京都建設局東部公園緑地事務所工事課の飯田有貴夫課長補佐から、修理事業の詳細についてご説明いただきました。その後、小石川後樂園の園内ならびに修理現場を見学し、龍居評議員や施工者でもある廣瀬慶寛代表から、より具体的な説明をいただきました。雨の中にもかかわらず、池の護岸石組の修理手法などについて、熱心に討議が繰り広げられました。



小石川後樂園での研修風景

天候が回復した翌18日(日)は、会場を東京都国分寺市内に移し、名勝殿ヶ谷戸庭園(随宜園)にて実地技能研修を行いました。

まず、園内の一室をお借りして講義を行いました。最初に東京都公園協会 殿ヶ谷戸庭園サービスセンター長の八馬稔氏よりご挨拶をいただき、続いて、文化財指定庭園保護協議会 前会長の樋渡達也氏より、殿ヶ谷戸庭園が国の名勝に指定されるまでの経緯を、さらに、龍居評議員より、庭園の概要についてご説明いただいた後、現地を見学しました。現地では八馬稔氏と本協議会の準会員補でもある木村央氏をはじめとした、東京都公園協会殿ヶ谷戸庭園サービスセンターの方々にご解説いただきました。



殿ヶ谷戸庭園での研修風景(上下とも)

最後に、龍居評議員から、庭園が文化財に指定される経緯にも様々あるが、庭園を守ろうという熱意が文化財庭園を保存してきたということも踏まえて、庭園の管理や保存修理を行わなければならないと総括いただき、2日間の日程を終了しました。



平成24年度新進芸術家育成事業ならびに第9回文化財庭園フォーラムを 宮城県石巻市内にて開催しました

文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の補助金による文化財庭園の保存管理技術全般にわたる長期研修を、昨年度の福井県大野市南専寺に続き、この6月16日(土)～23日(土)に宮城県石巻市の名勝齋藤氏庭園にて開催しました。また、続く6月24日(日)には、研修成果を発表するための第9回文化財庭園フォーラムを石巻市内で開催いたしました。ここに、一連の研修内容をご報告させていただきます。

齋藤氏は江戸時代中頃には現在地に居を構えるようになり、以来、酒造業や金融業を営みながら発展し、東北の3大地主ともいわれる一方、教育事業や社会事業にも多大な貢献をした家柄です。その中でも9代目善右衛門は、風光明媚な土地や庭園を愛好した人物であったようで、現在の庭園もおおよそは善右衛門の在世時、明治から昭和初期にかけての様相を残しています。

しかし、昨年の東日本大震災やその前の宮城県沖地震により、立て続けに建物の損傷や石造品の倒壊が起き、加えて、経年変化による池の護岸の緩みや樹木の伸張などもあり、十全な維持管理が難しい状況となっていました。

まず、16日初日は、尼崎博正・田中哲雄・丸山宏 各評議員と、水本隆信副代表や加藤末男正会員ら、正会員が研修方針を検討しました。その結果、8日間の研修では広大な齋藤氏庭園の全体に手が行き渡ることは難しいこと、また、近代の変遷の様相があまり把握できていないことから、地割や護岸石組などの変更を伴う修復作業は好ましくないとの結論となりました。



燈籠も多くが倒壊してしまい、火袋が割れてしまったものもありました。



上下とも4月末の齋藤氏庭園の様子



そこで、庭園の西側、明治期に改修されて池庭となっている部分の護岸の裏込めの補修、飛び石や雨落ち溝の不陸の補正、植栽管理を中心として、敷地内の倒壊した燈籠の修理と据え直しを並行して行うこととなりました。

途中、台風の来襲などもあり、天候は必ずしも良くありませんでしたが、護岸の裏込めの状況の確認を行っていると、池に繁殖するザリガニが穴を掘って、そこから侵食が進んでいることがわかり、石灰を混ぜた粘土を裏込めに補充しました。また並行して、伸張著しいサツキツツジの刈り込みなどの強剪定を



研修初日に庭園内を一巡し、修理方法などについて議論を重ねました。



表土や護岸に覆いかぶさっていたサツキなどをはがして、整地の経緯の裏込めの残存状況について確認しました。

行くと、隠れていた石組が姿をあらわし、庭園の本来の姿がだんだん明らかになってきました。燈籠は、割れたものを接着剤で接合させながら据え直しを行いましたが、欠けた破片が失われたものはセメントで欠損部分を補填してから据え直しを行いました。これらの修復は、廣瀬慶寛代表や上原修・徳村盛市・水本隆信副代表、加藤末男正会員らが中心となって作業を進めるとともに、(株)環境事業計画研究所の吉村龍二所長らが事業内容の確認や記録を行いました。



燈籠の据え直しも順次行いました。



刈り込みを強剪定してます

23日(土)には、文化財庭園保存管理技術見学会を開催し、植栽を剪定して石組があらわになっていく場面を加藤末男正会員の解説も交えながら見学者の方々にご覧いただきました。目の前で庭の様相が変化していくことに驚きと感心の声があがり、見学会終了後も庭園の管理や道具のことなどについて熱心に質問された方もおられました。

最後に尼崎博正・田中哲雄・中村一・丸山宏 各評議会員の他に文化庁記念物課の本中眞主任文化財調

査官や国立文化財機構奈良文化財研究所の平澤毅遺跡整備研究室長らにご指導・ご講評をいただき、齋藤氏庭園での実技研修を終了しました。

以上、齋藤氏庭園での研修終了後の6月24日(日)、文化財庭園フォーラムを行いました。

フォーラムは石巻専修大学構内にて、本協議会の廣瀬慶寛代表の開会挨拶で始まり、まずは文化庁の本中眞氏より、「東日本大震災における保存修理について」と題して、昨年の東日本大震災の被害状況や文化財の修復の取り組みなどについてご講演いただきました。



他の場所もどんどん刈り込みます

この後、文化財指定庭園保護協議会の亀山章会長を座長に、5人のパネラーの方を交えたミニ討論が行われ、庭園には文化財的価値が明らかになっていないものがまだまだ多いこと、庭園を保護するには、水源や周囲の景観も守らなければいけないこと、保存修理を行う場合には、その経緯や考え方などをきちんと残していくことが必要であること、などの提言を最後に亀山会長よりいただき、9日間の研修が終了しました。



見学会の様子



だいぶすっきりしてきました

続いてのパネラーの方々からの事例報告・話題提供では、尼崎評議会員からは松島を含めた東北の自然名勝と景観について、田中評議会員からは近年の文化財庭園などの修理方法の考え方について、丸山評議会員からは文化財庭園などを保存するにあたってのコンセプトなどについて、奈良文化財研究所の平澤毅氏からは齋藤氏庭園の文化財的・歴史的価値などについて、宮城県教育委員会文化財保護課の白崎恵介主任主査からは宮城県内の庭園の分布や文化財への指定状況などについてお話いただきました。



池の護岸石組などもはっきり見えるようになりました

なお、研修期間中、石巻市教育委員会生涯学習課の芳賀英実主幹をはじめとした石巻市教育委員会の方々、鉤取造園の下山宗喜氏のほか、関係者の方々には本当にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

庭園学講座19の開催について

本協議会で特別教養研修に位置づけている京都造形芸術大学主催の庭園学講座19が「日本庭園の不易と流行」をテーマに8月31日(金)から9月2日(日)の3日間開催されます。

なお、本講座は、応募者も多く、本協議会が集約してからの申し込みが間に合わない可能性が出てまいりましたので、本年度より、本協議会の事務局を通じての申し込みではなく、会員の皆様に各自で申し込みいただくこととなりました。ご承知おき下さい。また、講座の詳細については、同大学の「瓜生山エクステンションセンター」(電話：075-791-9124)へお尋ねいただくか、ホームページをご覧ください。

なお、本講座の受講に関して、研修会員の方については、協議会から受講料の一部を補助する予定です。受講後に、受講料の領収書と講座の修了証書の写しを事務局までお送り下さい。

新規加入会員の紹介

平成24年6月末日で技能会員は166名、支援会員・賛助会員は20団体、5名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員区分	氏名	所属
準会員補	望月 勲彦	天野造園(株)
準会員補	遠田 隆	(株)アーバン造園
準会員補	石川 昇	(株)岩間造園
準会員補	寺本 正保	(株)岩間造園
準会員補	佐竹 康太郎	(株)三五郎造園
準会員補	玉尾 重秋	(有)玉尾造園土木
準会員補	富田 真二	大島造園土木(株)
準会員補	翠 隆弘	香川県栗林公園観光事務所

会員区分	氏名	所属
研修会員	望月 真一	天野造園(株)
研修会員	鎌倉 有隆	(株)岩間造園
研修会員	早野 愛花	(株)三重造園
研修会員	小島 弘嗣	東海園(株)
賛助会員	野村 勘治	(有)野村庭園研究所

(編) 季節外れの台風や大雨が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本年度は例年とは違い、総会前に長期研修を行うこととなりました。梅雨時、しかも台風の通過もあり、ホテル近辺に避難勧告が出て、事務局が水と非常食を買いに走ったりもしましたが、幸い実際に避難することはなく、無事に研修を終えることが出来ました。

石巻研修の期間中、参加者の皆さんには、石巻市内の津波の被災地を見ていただきました。石巻をおそった津波は、多くは途中の丘陵などでせき止められましたが、川沿いだけは内陸まで津波がさかのぼったため、津波にのみこまれてしまった住宅地もかなりあったとのことで、自然の力の凄まじさを感じました。

また、石巻市内の石切り場も拝見に伺いました。石巻では、稲井石あるいは仙台石とも呼ばれる黒色の粘板岩が豊富で、齋藤氏庭園にも用いられています。石というと硬いものというイメージがありますが、稲井石には粘りがあり、薄い板石はかなり「しなる」のにはびっくりしました。

そうこうしているうちにあっという間に総会の開催となりました。今回は京都から離れて、三重県桑名市での開催となります。石巻の齋藤氏が東北の3大地主なら、桑名市の諸戸氏は明治に日本一の大地主となった家柄です。齋藤氏が教育や社会福祉に力を入れたのと同様、諸戸氏は地元の社会基盤の整備に力を入れました。そのため、桑名市内には諸戸氏に関わる史跡が多く残されています。ご期待下さい。